

## 2017 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

山下 慎一 (東北大)

今回 JUA/EAU Academic Exchange Programme にご選出いただき、北海道大学の菅野由岐子先生と一緒に、2017年3月18日から29日まで第32回 Annual EAU Congress (EAU17) を含む European Tour に参加させていただきました。台湾からも3名の先生がEAUとのExchange Programmeに参加しており、5名で多くの時間行動を共にしました。出発間まで詳細なTour内容の連絡がなく、指定されたホテルに到着すると予約が確認できないといったハプニングがあり、ロンドン到着直後はどのようなTourになるのか心細くなりました。しかし、実際に研修が始まるとよく洗練されたTourでかけがえのない経験をさせていただきました。

ロンドン中心部にある巨大な観覧車：Private capsule of the London eye (1周約30分) を University College London Hospital (UCLH) の先生方が準備してくださり、ロンドンの景色を楽しむことから今回のTourが始まりました。

UCLHには約35名の泌尿器科医が所属し、多くのプロジェクトが行われており、午前中Prof. J. Kellyをはじめ第一線で活躍されている先生方が様々なリサーチのレクチャーをしてくださいました。どれも興味深いものでしたが、陰茎癌の治療方針には驚かされました。イギリスではセンター化が進んでおり、UCLHの“陰茎癌センター”では週2件(年間約100件)の陰茎癌手術が施行されているとのこと。症例数が多く温存療法も積極的にを行い、機能温存をととても大事にしていました。

午後はPNLとロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術を見学させていただきました。泌尿器科だけで7つの手術室があり、様々な手術が毎日7列で同時に行われていました。UCLHでは放射線科医が腎瘻を造設、その後泌尿器科医がPNLと分業して一期的に行っていました。イギリスでは腎瘻造設の半分は放射線科医が行っているとのことでした。自分たちで腎瘻を造設している本邦との違いに複雑な気持ちになりましたが、和気藹々と雰囲気良くPNLが行われていました。膀胱全摘術では尿路変更もロボット支援下に施行していました。良好な術野で丁寧にご教授いただき自分たちの手術にととても参考になりました。本邦でも膀胱全摘術が早く保険適応になることを願うばかりです。また、膀胱全摘症例に最近ではERASを導入し、術後の回復が早くなったと今年のEAUで報告していました。良いと考えられることを積極的に取り入れ、しかも前向きに臨床試験を行っている姿勢には感銘を受けました。

また、ロンドンの中心部を流れるテムズ川の南にある



写真1 UCLH スタッフとの懇親会。左3番目: Prof. J. Kelly, 左2番目: 著者, 左4番目: 菅野先生



写真2 Guy's hospital。右3番目: Mr. O'Brien, 右2番目: 著者, 左2番目: 菅野先生, そして台湾メンバー達

Guy's hospitalでミーティングや手術を見学させていただきました。Guy's hospitalは約300年前にThomas Guyによって創立された歴史ある病院で、しかも高さは100mを超える巨大な病院で規模の大きさに圧倒されました。ちなみに、今回のEAU live surgeryはGuy's hospitalで行われました。

Guy's hospitalでは陽気なMr. O'Brien方に貴重な経験をさせていただきました。まず、Royal Automobile Clubに招待いただき、内装の豪華さ、食事の美味しさに驚嘆しました。“イギリスの料理は…”という思い込みが覆りました。また、翌日にはResidentsとBritish Pubで地ビールを堪能しました。ピックアップの近く(3日前に私が歩いた場所)でテロがあった直後にも関わらず、Pubはすぐに満席になり、店内に入りきれない仕事帰りの人々が肌寒い屋外でビール片手に談笑していました。

手術はRARPを中心にダブルコンソールで術者の横に座り勉強させていただきました。症例は100g以上の巨大前立腺、HIFU後、小線源療法後とバリエーションに富んでいました。HIFU後や小線源療法後は癒着が高度でかなり難しそうに見えましたが、しっかりと見極めながら剥離を進め直腸損傷もなく、約3時間で手術が終

了しました。技術を向上させることで手術の幅が広がることを再認識しました。

病院研修後、Annual EAU Congressに参加しました。Plenary sessionsでは最新の情報が分かり易くコンパクトな講演を拝聴し、poster sessionsでは様々な考え方を直接聞くことができとても有意義な学会でした。しかも、帰国前日の夕方のposter sessionで発表の機会をいただき最後まで適度な緊張感を保つことができました。最も印象に残ったのがEAU international dinnerで、世界的に著明な先生方と一緒に日本(2名)・台湾(3名)・カナダ(2名)からのExchange programmeに参加した私たちも同席させていただきました。それだけでなく、会の

冒頭に壇上で会長からExchange programme参加の盾をいただき至福の喜びを感じました。

このProgrammeで得られた貴重な経験を今後の診療や研究に役立てるように努力していきたいと考えています。また、今回の経験を自分の糧にするだけでなく、しっかりと伝え今後の日本泌尿器科学の発展に少しでも寄与できるように頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、私たちを温かく迎えてくださいました先生方や病院関係者に厚く御礼申し上げます。また、このような貴重な経験をさせていただく機会を与えてくださいましたJUAおよびEAUの関係者の皆様にはこの場をかりて心より感謝申し上げます。